

共同研究に係る熊本学園大学生との意見交換会

日時:令和6年(2024年)12月18日(水)16:00~17:00
場所:熊本市役所 本庁舎5階 庁議室

■テーマ1 交通渋滞「熊本市の渋滞をなんとかしたい」

学生からの提言	市長コメント
・マイカー利用の規制を促すことが、結果的に渋滞緩和に繋がるのではないか。 ・海外事例(シンガポールで導入している渋滞課金制度)を参考に、熊本市街地に乗り入れる車両に税を課す、また、公共交通期間利用促進のために補助金を出して運賃を値下げするのは有効ではないか。	・市民の生活や経済活動などに大きな影響を与える交通渋滞への対策は喫緊の課題であると認識している。渋滞解消については、manifestにも掲げており、道路施策とあわせ、自家用車から公共交通への転換を図る公共交通施策の両輪で取り組んでいる。 ・今回、経済学の視点や海外事例を踏まえ、マイカーから公共交通機関への移行を促すインセンティブ政策として、マイカーの利用規制と公共交通機関への補助金ということを提言いただいた。公共交通施策はスピード感をもって取組むことできる点で、とても重要な取組だと思う。

■テーマ2 少子化「熊本市の少子化対策ー離婚率低下への経済的アプローチー」

学生からの提言	市長コメント
・母子家庭世帯割合が大都市中1位であることに着目し、離婚率を下げることで少子化に繋がるのではないか。 ・離婚率の低下には、データ分析の結果から、共働き世帯の割合が増えることが離婚率を下げる一つの要因になると示されている。宇都宮市を参考に、保育所に入所するための条件や基準を見直すことで、労働時間の長い共働き家庭の子どもを優先的に入居できるような仕組みを導入してはどうか。	・若い皆さんの結婚観として、働き続けられないのではないか、経済的なゆとりがなくなるのではないか、といった将来に対する不安があるため、結婚することは考えられない(夢が描けない)、といったお話しであり、改めて、その対策の強化が必要だと感じた。 ・また、少子化対策のアプローチを、母子世帯割合が政令指定都市で最も高いといった状況から離婚に着目し、経済的な視点から要因分析を進めることで、「共働き」と「医療費」がポイントとなることを示し、その対策を検討されたことは、とても意義深い。 ・共働き世帯の子育て支援、健康づくりの推進が、皆さんの結婚に対する不安を解消するうえでも、重要であることが理解でき、大変参考になった。